

令和6年度第1回子ども・子育て会議 議事要旨

日 時：令和6年8月27日（火）13時30分～15時40分

場 所：村岡区中央公民館 2階 大会議室

出席者：委員10名（4名欠席）、教育長、事務局5名

《次第》

開会

会長あいさつ

教育長あいさつ

議題

(1) 令和5年度事業計画の実施状況について

(2) 第3期香美町子ども・子育て支援事業計画の策定について

① 国の基本指針と子ども・子育て支援事業計画について

② 第3期香美町子ども・子育て支援事業計画の基本理念等について

③ 子育てに関するアンケート結果について

意見交換

閉会

《資料》

資料10・・・ 令和5年度事業計画の実施状況

資料11・・・ 令和5年度地域子ども・子育て支援事業について

資料12・・・ 国の基本指針と「香美町子ども・子育て支援事業計画」について

資料13・・・ 『第3期香美町子ども・子育て支援事業計画』の基本理念等について（案）

別冊・・・ 香美町子育てに関するアンケート報告書

《議題》

(1) 令和5年度事業計画の実施状況について（事務局による説明）

■委員意見

※ 意見なし

(2) 第3期香美町子ども・子育て支援事業計画の策定について

① 国の基本指針と子ども・子育て支援事業計画について（事務局による説明）

■委員意見

※ 意見なし

② 第3期香美町子ども・子育て支援事業計画の基本理念等について（事務局による説明）

■委員意見

- ・ 香美町としては子どもの数の減少に危機感を持たなくてはならない。子育てに関するアンケートを実施したが、香美町が良いと思って実際に暮らしている人だけを対象のアンケートであって、香美町に帰れていない人へのアンケートは行われていない。基本目標Ⅳに掲げる「安心して子どもを生み育てることができるまち」とあるが、この計画は子育て支援事業への取組ができたかどうかの評価であって、目標とするまちになったという結果が出ていないことが不安である。
- ・ 少子高齢化で子どもの数が減っているのは、香美町に限らない。決定的な特効薬はなく、いろんな施策を総合して進めるほかない。
- ・ 子どもを増やすことが一番の解決策であるが、この計画は地域に住む人に対していかに支援するものであり、他の地域から呼び込むことを目標にその部分をもっと議論すべき。香美町ならではの基本理念を記述することは可能なものか。
- ・ 香美町の高校にも外部から生徒が来ているが、そういうプラス要素がある市町村の事業、企業の状況、生活環境を調査することは必要である。コンビニは24時間体制であり、住民票もコンビニでとれるようになっていて生活様式の内容も変わってきている。

□事務局

- ・ この計画の柱は、子育て支援に関することではあるが、次世代の子どもの育成推進計画などその他の子どもに関する個別計画をこの子ども・子育て支援事業計画の中にまとめている。この中に少子化対策の取組を盛り込むことは可能である。
- ・ 福祉課においても同じような計画があり、例えば障害者福祉計画は、子ども・子育て支援事業計画とは同じ5年間の事業計画となっている中で、町の総合計画に対しても目標値の見直しが必要になっている。
- ・ 現在の子ども・子育て支援事業計画でも令和4年度に（令和5・6年度の）中

間見直しを行った。その中で新たな事業を加えたり修正したりしたが、国からは必要に応じて毎年でも見直しをするよう指導がある。町の総合計画と方向性が合わなくなってきた場合などは、計画内容の見直しが必要になる。

□教育長

- ・ 全国的に子どもが減ってきていていろいろと政策や対策を進めているが、歯止めが利かない現状がある。如何に香美町に残ってもらうか、また、香美町から町外へ行った人に戻ってきてもらうために何をすればよいかをみんなで真剣に考えていかなければならない。子どもとその親、祖父母の三世代の思考が変わってきていて、世代間の距離を縮めることが必要だと思うが、これは教育だけではできないこと。時代とともに生活の形態が変わっていて、家の問題、学校で対応できる問題、地域で見なければいけない問題がある。香美町に住んでいる人たちの減少に歯止めをかけ、いい町に住んだなって思えるための政策を考えていけないといけないが、非常に難しい。

③ 子育てに関するアンケート結果について（事務局による説明）

■委員意見

※ 意見なし

○その他子育て支援について

■委員意見

- ・ 青少年育成関係の研修で「親が子どもに対して大学進学や大会社への就職という考えを植え付けてしまい、自然に子どもが出て行ってしまう」という指摘があったが、そこには教育が必要だと思う。
- ・ 香美町に帰ってくる又は帰ってこないは、結局は本人の選択であり、そこを基準に子どもを育てていくことがよいと思う。

□教育長

- ・ 「家を守ることが全てだ」と教えるかはその家庭の判断で、いずれの選択も間違っているとは限らない。「それぞれの故郷はそこに住むことでなく、故郷を思うこと」と定義されており、帰ってくる、帰ってこないはそれぞれ。「親と一緒に暮らすものだ」との考えを正解とするには非常に難しく、子どもがどうやって幸せを得ていくかを強制できない時代が来ている。